

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 30 年度教育研究報告書

事業課題名	南京大学中国語研修
代表者名	平田 昌司
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業は、2018 年 8 月 20 日から 9 月 14 日まで四週間にわたり、南京大学海外教育学院において中国語研修コースに参加するプログラムであり、異文化間の理解と交流を主たる目的とする。日本の他大学から派遣された学生や「江蘇杯中国語スピーチコンテスト」受賞者と合同クラスを編成したため、全体の人数はやや多い（今年度は 16 名）。</p> <p>研修内容は、(1)「総合（文法）」「口語（会話）」の中国語学習、(2) 太極拳、切り絵、書画などの中国文化体験に大別される。また、週末を利用して、南京大学日本語学科の学生との交流活動、南京市内の巡検（中山陵、総統府、南京博物館など）が実施されたほか、現地の高校を訪問して京都大学や日本について紹介する機会も設けられた。研修終了後、参加者に対して語学研修の成績と修了証が交付された。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>今年度の参加者は文学部 2 回生の 1 名、第二外国語として中国語初級を履修済みの学生であった。事前準備としては、5 月 31 日に南京大学海外教育学院ウェブサイト上でオンライン登録を済ませ、あわせて担当教員（緑川英樹・木津祐子）との個別面談をおこなった。出発直前の 7 月 24 日にはオリエンテーションを実施し、中国語会話、滞在中の注意事項、南京の歴史・文化について理解を深めた。</p> <p>南京大学海外教育学院における主な研修内容は、平日に開講される中国語の集中特訓（50 分×4 時限×5 日／毎週）。「総合（文法）」は楊寄洲主編『漢語教程』第二冊上（北京語言大学出版社、2006 年）、「口語（会話）」は王励主編『短平快 漢語——初級口語（2）』（北京大学出版社、2006 年）を教材に用いて、授業が展開される。担当教員の緑川も現地でもその様子を視察したが、教科書を解説するだけの講義ではなく、学生各人との双方向のコミュニケーションと「体験学習」（Experiential Learning）を重視した内容であるという印象を受けた。</p> <p>参加者はすでに一年余りの中国語学習歴を有していたが、初めての海外滞在ということもあり、出発前は不安を覚えていたようである。しかし、実際に現地に身を置き、中国語のみを使って教師や他の学生とのコミュニケーションを重ねる過程で、徐々に自信を深めてゆき、中国近代史を専門的に学びたいという方向性も明確になったという。限られた期間の研修ではあるが、参加者にとって生涯忘れることのない、意義深いプログラムであったと言ってよいだろう。</p> <p>なお、研修終了間際の 9 月 4 日、台風 21 号により関西国際空港が甚大な被害を受け、南京—関空の帰国便は欠航になった。幸い国際交流推進室のスタッフの方々に迅速に対応していただき、上海経由、成田着のフライトに振り替えて、予定どおり 9 月 15 日に帰国することができた。</p>



「中国文化体験（太極拳）」